

UNIVERSITY OF TSUKUBA

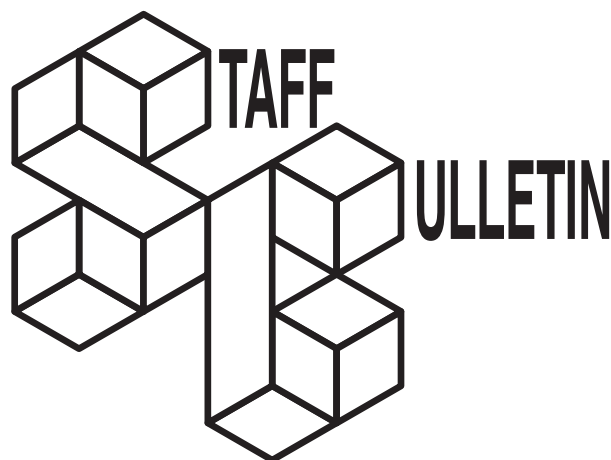
17 2001 速報つくば

筑波大学広報・公開室編集

企画調査室発行

平成13年10月3日

通巻1017号



水島前文部科学大臣政務官が筑波大学を視察



陽子線医学利用研究センターを視察する水島前文部科学大臣政務官

水島前文部科学大臣政務官は、9月18日（火）に筑波大学を訪問し、大学関係者との懇談及び学内施設を視察しました。懇談には、北原学長の他、学内から関係副学長及び事務局長、学外から木村高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所長、加茂物質・材料研究機構理事、春山宇宙開発事業団筑波宇宙センター長、宮林理化学研究所筑波研究所長が同席し、北原学長から本学の概要等について説明を受けました。また、懇談後、陽子線医学利用研究センターを視察し、秋根センター長から回転ガントリーの照射施設等の説明を受けました。

赤木和夫教授（物質工学系）及び同教授研究指導下の小熊潤氏、戴小満氏の3名が日本液晶学会賞（論文賞）を受賞



赤木和夫教授

赤木和夫教授（物質工学系）及び同教授研究指導下の小熊潤氏（平成11年度工学研究科修了、現：住友化学つくば研究所勤務）、戴小満氏（平成10年度工学研究科修了、現：米国ケン

州州立大学液晶研究所博士研究員）の3名は、平成12年7月に仙台で開催された国際液晶学会（ILCC2000）にて発

表した共著論文「Synthesis and Properties of Ferroelectric Liquid Crystalline Poly(p-

Phenylenevinylene) Derivatives, 訳：強誘電液晶性を有する共役系高分子、ポリパラフェニレンビニレン誘導体の合成と性質」により、平成13年度日本液晶学会賞（論文賞）を受賞しました。同賞は、過去2年間に日本液晶学会などにおいて発表された最優秀論文の著者に授与されるものです。なお、小熊潤氏及び戴小満氏は、本学大学院工学研究科を修了し、現在はそれぞれの勤務先で活躍されている社会人ですが、当該研究は、両氏が本学に在籍中になされたものです。

岡崎 章講師（芸術学系）が日本感性工学会大会優秀発表賞1999・2000を受賞



岡崎 章講師（芸術学系）は、このたび日本感性工学会大会優秀発表賞1999・2000を受賞しました。

受賞となった論文は、感性評価構造モデル構築特別プロジェクトの研究内容である「仮想美術館と現実の美術館における感性行動特性」1999、「鑑賞用

リモートコントロールロボットによる感性行動」2000に対して贈られたものです。授賞式は9月14日（金）第3回日本感性工学会大会（中央大学理工学部）にて行われました。

感性評価構造モデル構築特別プロジェクトHP
<http://www.kansei.tsukuba.ac.jp/>

末益 崇講師（指導：長谷川文夫物理工学系教授）が2001年度応用物理学会論文賞(JJAP論文奨励賞)を受賞



末益崇講師（指導：長谷川文夫物理工学系教授）は、その研究論文「Room Temperature 1.6 μm Electroluminescence from a Si-Based Light Emitting Diodes with -FeSi₂ Active Region」により、2001年度応用物理学会論文賞

(JJAP論文奨励賞)を受賞しました。

この賞は、Japanese Journal of Applied Physics (JJAP)に掲載される年間2000件以上の論文の中から、毎年5名の35才以下の筆頭著者に贈られるものです。受賞対象となった研究は、シリコン集積回路内外の光配線の実現につながるもので、新聞でも大きく取り上げられました。

香田正人教授（社会工学系）がWho's Who（2002年版19版）に掲載される



香田正人教授（社会工学系）は、Marquis版Who's Who in the World（2002年版第19版）に掲載されることになりました。この人名録は、世界的に権威のあるもので、それぞれの分野で国際的に貢献度の高い人物を厳選して掲載するものです。

香田教授は、感度解析や最適化理論及びそれらのデータマイニングへの応用に関する研究が高く評価され、掲載となったものです。なお、香田教授はMarquis版Who's Who in Science and Engineeringに1998年度版から掲載されています。

谷本啓司講師、本橋ほづみ講師（先端学際領域研究センター）が平成13年度科学技術振興調整費の若手任期付研究員支援制度新規課題採択



谷本啓司講師



本橋ほづみ講師

谷本啓司講師、本橋ほづみ講師（先端学際領域研究センター）の両名は、本年度から公募することになった平成13年度科学技術振興調整費の若手任期付研究員支援制度に応募し採択されました。この制度は、法律の規定に基づく任期付の若手研究者で35歳以下の研究者が対象となるものです。

山本芳嗣教授（社会工学系）研究指導の元博士課程社会工学研究科システム情報数理専攻小原朱理氏が日本オペレーションズ・リサーチ学会第19回学生論文賞を受賞



山本芳嗣教授（社会工学系）研究指導の元博士課程社会工学研究科システム情報数理専攻の小原朱理氏が日本オペレーションズ・リサーチ学会第19回学生論文賞を受賞しました。

受賞者の小原朱理氏は現在社会人として

活躍中ですが、受賞対象となった論文は、小原さんの修士論文「相互評価の下での可能性定理」です。なお、表彰式は9月12日（水）に岡山大学で開催された同学会秋季研究発表会で行われました。

李相茂教授（物理学系）研究指導下の物理学研究科4年次今中雅士君がICIS '01最優秀ポスター賞を受賞



9月3日（月）から7日（金）まで、米国カリフォルニア州オークランド市で開催された第9回イオン源国際会議（ICIS '01）において、李相茂教授（物理学系）研究指導下の博士課程物理学研究科原子核物理学専攻4年次今中雅士君がECRイオン源分野で最優秀ポスター賞を受賞しました。受賞対象となった論文は「液体ヘリウムフリー超伝導ECRイオン源におけるバイアス電極の効果」です。本賞は、すべてのポスター発表の中から、視覚的なインパクト、科学的内容とそのオリジナリティー、構成・表現の明解さ、を審査した上で選ばれるものです。標記のECRイオン源は、李教授の研究グループで進めているクラスター分裂実験に向けて、同グループが理化学研究所と共同開発した独自の装置で、 $10 \mu\text{A} \cdot +30$ 価のXeビーム取り出しに成功し、世界最高性能を達成しています。発表論文は、そのような達成に最も寄与のあったバイアス電極の効果を研究し、まとめたものです。

宮本定明教授（機能工学系）研究指導下の工学研究科5年次高田治君が日本ファジィ学会奨励賞を受賞



9月5日（水）～7日（金）に日本大学船橋校舎で開催された日本ファジィ学会主催第17回ファジィシステムシンポジウムにおいて、宮本定明教授（機能工学系）研究指導下の工学研究科知能機能工学専攻5年次高田治君が奨励賞を受賞しました。受賞対象は第16回ファジィシステムシンポジウムで発表した講演論文「不確定性を含むデータのファジィクラスタリングにおける中心の計算」です。この賞は、毎年開催されるファジィシステムシンポジウムの講演論文数百件のうちから、35才以下の発表者を対象として選考されるものです。なお、本年は3件の奨励賞のうち2件を、筑波大学の大学院生が受賞しました。

附属駒場高等学校チームがスーパーコンピュータコンテスト（SuperCon2001）で優勝・準優勝

7月30日（月）より8月3日（金）にかけて、東京工業大学学術国際情報センター主催による第7回スーパーコンピュータコンテスト（SuperCon2001）が開催されました。本学附属駒場高等学校より、林崎弘成君（3年）、三